

タイトル	なかがanmarけ 中雁丸家表門、石碑移築の完成および現地説明				
開催日時	1 2月2 0日（水）		午後1時3 0分		
開催場所	中雁丸家表門前（旧外川家住宅駐車場内）				
内容	1. 中雁丸家の歴史 中雁丸家は、表通りに面して屋敷がある町御師であり、入口に表門があります。 中雁丸家は、江戸時代中期に御師となった家筋です。御師としての初代は、田辺十郎右衛門の息子である多吉で、後に中雁丸豊宗を名乗ります。富士講中興の祖として知られる食行身禄が富士山の七合五勺の烏帽子岩で入定したときに、十郎右衛門と共に付添い、万年雪を茶碗に入れて溶かし、それを身禄に渡したと伝わります。身禄の死後、中雁丸は父の田辺とともに富士山信仰の教えを積極的に布教し、富士山を信仰し登山する団体である富士講が江戸を中心に爆発的に増えていった立役者となったことで知られます。 なお、中雁丸豊宗は、身禄が入定した七合五勺より下に仙行室という小屋を建てて修行をしたとされ、現在も山小屋「白雲荘」として営まれ、小屋内には中雁丸豊宗の像が祀られています。 2. 中雁丸家表門および石碑移築の経緯 中雁丸家表門及び石碑は、中雁丸家の主屋と合わせて上吉田中宿の本町通り沿いに建っていたものです。移築前の所在地は上吉田 5-8-16 です。 令和 4（2022）年に敷地内の開発が計画されたため、歴史的価値が高い表門および石碑は旧外川家住宅駐車場内に移築されることになりました。解体保管は令和 4（2022）年度に、移築は今年度に行い、12 月に完成しました。 なお、昭和 4 年（1929）ころに建てられた主屋は撤去されました。 ※中雁丸家表門及び石碑の詳細は別紙 1 ～ 2 のとおり				
問合せ	歴史文化課	担当者名	篠原	連絡先	24-2411
備考					

1. 中雁丸家表門の概要

①現所在地 富士吉田市上吉田 3-14-10

②構造形式

一間一戸の木造薬医門、切妻造、金属板一文字葺。本町通に西面して建つ。主柱（鏡柱）間に両開き板戸を吊る。

主柱間芯々 2,784mm 主柱～控柱間芯々 1,556mm

軒高（軒桁高さ） 3,068mm

③内 容

本建物は、御師中雁丸家の表門です。表門の建築年代は、部材の状況や建築様式等から江戸時代末期から明治初期と考えられます。

現状は単独で建つ形ですが、痕跡から両袖に塀が付いていたことがわかります。同じく御師である^{せんげんぼう}浅間坊の表門（市指定有形文化財）と比較すると、装飾は少なく簡素な形ですが、骨太で質実剛健な造りです。

富士講を泊める御師町として発展してきた上吉田地区の御師の遺構が年々減少していく中で、本建物は本町通りに面して建つという点で、御師町の象徴として浅間坊の表門と双壁をなすものであり、重要な文化財建造物です。

2. 石碑

石碑は4基あり、そのうち奉納年が刻まれた3基は、^{かえい}嘉永3年（1850）奉納、明治42年（1909）奉納、大正15年（1926）奉納のものです。いずれも中雁丸家を定宿とした富士講が富士登山三十三度の大願成就を祝って中雁丸家に奉納したものです。富士講の所在地は、埼玉県、千葉県、群馬県です。もう1基は、奉納年・奉納者ともに不明ですが、初代中雁丸豊宗を顕彰する石碑です。

これらの石碑は、中雁丸家と富士講との深い交流を示す重要な文化財です。

別紙 2



中雁丸家表門 正面



中雁丸家の石碑